

平成26年11月18日
九州地方整備局
佐伯河川国道事務所

～道路メンテナンスの実行へ～

津久見市民図書館で道路老朽化対策のパネル展を開催！

高度経済成長期に、集中的に建設された橋梁などの道路構造物は、今後急速に高齢化し、10年後には建設後50年経過する橋梁が4割以上になると見込まれます。

道路構造物の老朽化は進行を続け、平成25年4月時点において、通行止めや重量制限等の通行規制されている橋梁は、九州において約150箇所(全国約2,000箇所)となっています。

構造物の計画的な点検により早期に損傷を発見し、重大な損傷に至る前に対策を実施する予防保全による維持管理により、道路ストックの長寿命化の取り組みを強化し、大切な資産である道路ストックを長く大切に保全するとともに、安全で安心な道路機能の確保を図ることとします。

このため、九州地方整備局佐伯河川国道事務所は、**道路の老朽化対策**に関するパネル展を以下のとおり実施します。

場所：津久見市民図書館 1階展示ホール 津久見市大友町(別添1)

日時：平成26年12月2日(火)10時 ～ 12月25日(木)16時まで

【問い合わせ先】 国土交通省 九州地方整備局 佐伯河川国道事務所
電話：0972-22-1880 (代表)

技術副所長 あさい ひろみ 浅井 博海(内線205)

工務課長 ながとも ひろのぶ 長友 浩信(内線411)

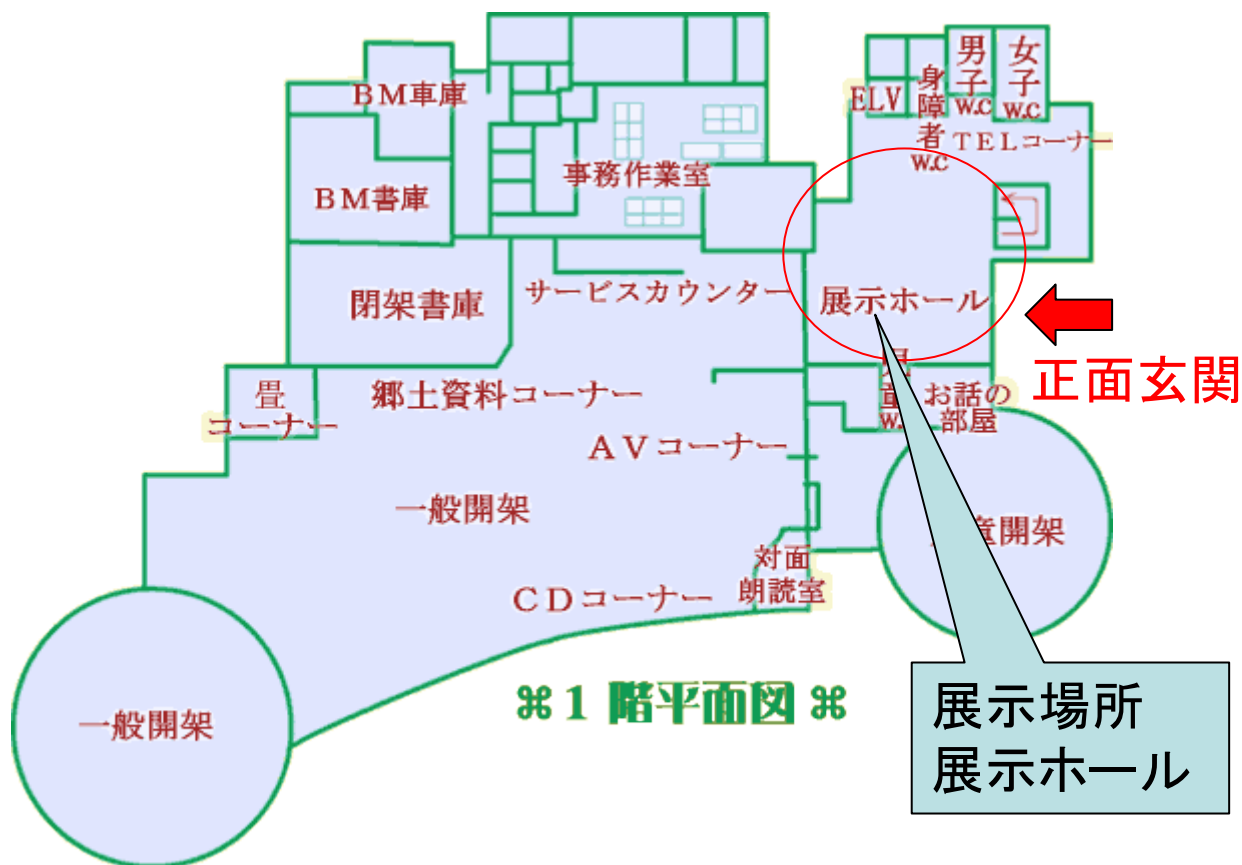
なお、道路の老朽化対策に関するホームページも開設しております。
<http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/> よりぜひご覧下さい。

◎展示場所

津久見市民図書館
津久見市大友町5番15号



津久見市民図書館 1階

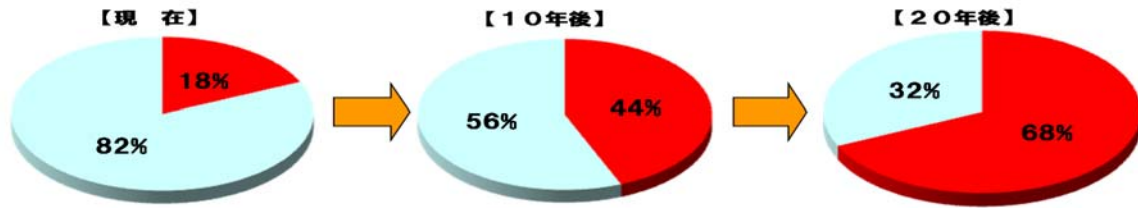


道路施設の現状（高齢化の割合）

◆建設後50年以上(高齢化)の割合

橋梁

・九州における橋梁（橋長2m以上）のうち、建設後50年以上経過する橋梁は18%（2012時点）で、10年後（2022年）には44%、20年後（2032年）には68%と半数以上に拡大します。

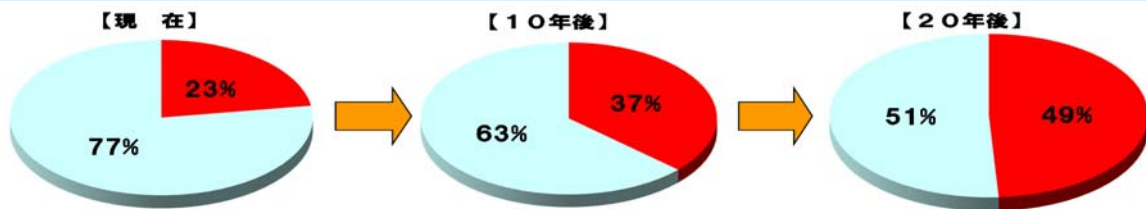


建設後50年以上経過の橋梁の割合(10年単位)

注)・建設年次が把握されている約6万橋で整理
・建設年次が「明治以前」となる施設は「1867年開通(明治元年=1867年)」として整理

トンネル

・九州におけるトンネルのうち、建設後50年以上経過するトンネルは23%（2012時点）存在し、10年後（2022年）には37%、20年後（2032年）には49%と約半数に拡大します。



建設後50年以上経過のトンネルの割合(10年単位)

注)・建設年次が把握されている1,624箇所を整理
・建設年次が「明治以前」となる施設は「1867年開通(明治元年=1867年)」として整理

老朽化対策の取り組み（点検技術）

◆老朽化対策における点検技術

・特殊点検車両や船舶等で、ふだんは見えない所も近づいて技術者が近接目視点検しています。



橋梁点検車による点検



リフト車による点検



高所作業車による点検



足場設置による点検



特殊高所技術による点検



小型船舶を使用した水上での点検